



RI 第 2 6 1 0 地区

井波庄川ロータリークラブ会報

2008-09年度 No.13 10月1日発行

事務局 〒932-0211 富山県砺波市庄川町示野 121 リプロ内

TEL&FAX 0763-82-4318、inashorc@athena.ocn.ne.jp

2008-09 年度 会長 小西 勝、幹事 高瀬 顕正

2008-09年度 RI テーマ



「夢をかたちに」

(李東建会長)

①例 会 記 録

②シリーズ「ロータリーよどこへ行く」Ⅳ

第 1 4 4 2 回例会

平成 2 0 年 9 月 2 4 日(水) 井波文化センター

1. 点鐘 小西会長
2. ソング「我等の生業」
3. ゲスト：卓話者紹介、岩田次雄氏(北陸コンピュータサービス社長)紹介者：米道俊正会員
4. 会長の時間…「本日は、素晴らしい天気、秋の爽やかな一日です。最近、食の安全が問われています。こんなときこそ、ロータリーの職業倫理が生かされるのではないかと思います。今は、選挙の季節、参議院以外は何んでもあり、当事者は大変ですね。」
5. 幹事報告…「次週の例会の確認です。『職業奉仕月間に因んで』ということで、11:30~12:30、ふなの里で各自食事をしてください。その後、庄川美術館へ移動し、挽物木工芸『細川毅展』を鑑賞します。」
6. 委員会報告…出席委員会(代理): 25 名中 14 名出席(出席免除者 8 名中 6 名出席)・・・出席率 60.87%
7. ニコニコ BOX(助田 SAA: 本日 6 名 11,000 円)
岩田次雄氏：謝礼、ニコ BOX に寄贈します。
河合副会長：南砺の山々、10 月中旬桜が池で植樹します。

米道会員：岩田さん、よろしくお願いします。

坂井会員：最近、欠席多くお詫び。岩田様卓話よろしく

お願いします。

山本会員：井波中女子、砺波地区新人戦、立山大会で優勝、感激です。

高瀬幹事：岩田様よろしくお願いします。早退お詫び。

(9 月計 32,000 円：年度累計 136,000 円)

卓話「やる気を出す」 岩田次雄氏

紹介者：米道会員「岩田さんには、富山からはるばる、来て頂きました。家内の方の親戚です。長らく北陸銀行勤務され、4 年前に常務取締役で退任され、現在北陸コンピュータ・サービスの社長です。



岩田氏：平成 16 年に 43 年間勤務した北銀を退任

しました。平成9年11月からは、銀行員生活で経験したことのない未曾有の苦境にさらされました。また、平成6年から4年間、営業渉部長在職時には、北銀が井波町、庄川町の指定金融機関にご指定をいただいた。いづれも当地の皆様に変にお世話になり、改めて感謝申しあげたい。

さて、私の父は、広島江田島の海軍兵学校に勤務しており、母が小矢部の生まれで嫁ぎました。私は昭和17年12月生まれです。父は海軍で、昭和19年6月、私が1歳のときに、マリアナ沖海戦で、乗船していた空母「大鳳」が撃沈され、戦死しました。その空母は舞鶴港が母港でした。そんな関係で、毎年6月19日には慰霊祭に出かけますし、出張で上京したときには、靖国神社に参拝しています。

というわけで、我が家は母子家庭で、昭和36年高卒で、北銀に入行するまで、ずっと母の後姿を見て育ちました。父からの教育を受けたことがないので、社会に出て、お客さんの姿を見て、いろいろ教えられ成長させていただいた。

若い時、こんな言葉を教えられ肝に銘じました。

①「徳を積み」②「月給は全部使え」③「良馬は鞭影を見て走る」…①は、一生懸命会社のために働けば、しっかり評価してもらえる。②は明日の再生産のために、できる限り自分に投資をする。高卒と言うこともあり、通信講座の受講はもとより、謡、日本舞踊、釣り、ゴルフ、盆栽、何にでもチャレンジした。③は、仕事は、たたかれて、言われてやるのではなく、自ら進んで計画を立ててやる。仕事は明日に先延ばしせず、今日中にやるとの強い意志を持つ。

これらの言葉を具現化させるにはベースは「やる気」を出すことだと考えました。余談ですがわが社ではこの春、40名が入社しました。人材育成にかかわる投資は最大限に投入すべきと考えております。前年度は50百万円投入しました。私は、企業価値を高めるには、人材の価値を高めることだと考えております。

北銀の高木頭取は、どんなに厳しい状況にあっ

ても、人材育成のための教育研修に注力されておられます。私は高木頭取が理事をしている、ハワイのJAITS（日米経営科学研究所）に、毎年8名の社員を海外研修に派遣しています。

私が大切にした若い時の言葉は、今の若い世代には理解されにくい。若い社員に「やる気を出させる」には、どうすれば良いかを考えました。

- ①「仕事に責任を持たせる」：あなたには会社の大事な仕事を任せている。期待をしている。与える仕事の重要度を知らせる。
- ②「良い結果は、ほめてあげる」：過大かもしれないが、ほめる。
- ③「…のために、と、目標を持たせる」：例えば、家族のために、でもいい。そのためには…。
- ④「直属の上司は、魅力ある人間であること」：あの上司のためにがんばる。

以上のような点でコミュニケーションを高めることで「やる気を出させ」、「人材の育成」を図っていきたいと考えております。

【要約：山本】

【編集後記】

今回の卓話は、以前、私の医院もお世話になったことのある北陸コンピューター・サービスの岩田次雄社長さんでした。15年ほど前、カセットテープをデータ媒体にして、レセプトを作成してもらっていました。世の中も変わり、自院でパソコンで簡単に作成できるようになりました。

ところで、岩田社長さんの話は、大変興味深く聞かせていただきました。なぜなら、私も父が3歳でなくなり、母子家庭ですから、社会で学んだことがほとんどです。例えば、「人の振りみて、我が振り直せ」、「上を見たらきりが無い」、「相手の顔は鏡なり」、「外的充足は、内的充足から来る」、「優越感の裏返し」そして、「Don't put off till tomorrow what you can do today !」（今日できることを明日に延ばすな）

久しぶりに、昔を思い出し、ジーンとききました。岩田社長さん、有難うございました。

・・・（山本武夫）

シリーズⅣ 『バブルが消えて』

平成に変わった翌年の 1990 年、バブルが崩壊して 18 年が過ぎた。

そのバブル絶頂期には、ブラックマンデーの後遺症で悩むアメリカ経済の低迷をよそに、日本経済のバブルが膨張。その経済システムは、経済発展のお手本として発展途上国から驚異と羨望のまなざしで見られていた。

だが、バブルが弾けてみると、いろいろなほころびが出てきた。護送船団方式で保護されてきた金融システム、非効率的な流通システム、官僚制、行政指導、労使関係、談合や無駄の多い公共・許認可事業、経営者の低いモラルなど。日本の「常識」は最早、世界には通用しなくなったのである。

日本のロータリーの歴史をみると、まさにこの日本経済の浮沈に酷似していることに気付く。

1920 年、ロータリーが日本に上陸して 88 年、その間、第 2 次世界大戦による 9 年間の R. I. 脱退の空白期間があったものの、クラブ数、会員数の拡大成長はめざましく、その勢いは「会員が増えなければロータリーではない」とまで言わしめる程であった。

しかし「地価は絶対に下がらない」と言う神話が崩れていったように、1996 年から日本の会員が初めて減少するという、未だ経験をしたことのない日本ロータリーのバブルの崩壊が始まったのである。

2005 年、日本の人口が初めて減少傾向に転じた。この傾向は、少子高齢化減少によって加速し、ある研究グループの推計によると、2050 年には全国の人口は 74%に減り、富山県はそれよりも更に低く 62%に減少するという。これは県西部呉西地方には、人間が居なくなってしまうということである。人口が半分以下になるという青森、秋田、和歌山の 3 県よりは良いにしても、これは大変なことである。

人間が、泉のごとく湧き出るのならいざ知らず、このような時期に日本のロータリアンだけが、右肩上がりに増えていくなどということは、誰が考えてもあり得ないことを、知ってか知らずか「増強、増強、増強は会員の責務である」と耳に蛸ができるくらい言い聞かされて来たり、また今後も続いて行くだろう。

確かに会員の増強は必要である。しかしもっと必要なことがある。それは、なぜ日本のロータリアンが異常な勢いで右肩上がりで増え続けたのか、そして今、なぜ止まることを知らないほど減少を続けているのかという事実を究明、分析することである。

日本のロータリーのステータス性とエリート意識、名前だけの職業別会員制度、地区組織の管理指導など、まだまだあるであろう要因を全て洗い出し、検証しなければ取り返しのつかないことになるであろう。